



WE  MAPS

INTERNATIONAL MAP YEAR 2015-2016

防災を支える空間表現科学 ～日本地図学会の活動～

日本地図学会 会長

森 田 喬

(法政大学)

日本学術会議学術フォーラム

「防災学術連携体の設立と東日本大震災の総合対応の継承」

2016.1.9



日本地図学会の活動

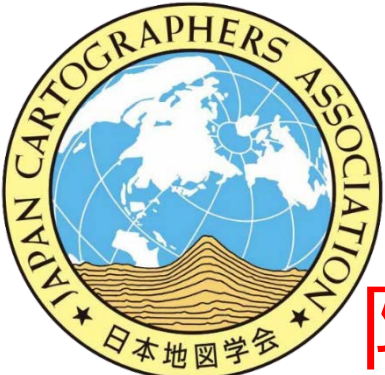
- 設立:1962年（当初は「日本国際地図学会」）2012年に創立50周年を迎えたのを機に「日本地図学会」に改称
- 目的：地図に関する研究活動や情報収集交換、地図作成・利用技術の発展への寄与、国際地図学協会International Cartographic Associationとの連携による国際交流



INTERNATIONAL MAP YEAR 2015-2016

防災と地図

- 地図・地理空間情報は防災のあらゆるステージで重要な役割。特に視覚を通じた分かりやすい共有イメージの提供が可能。
- 情報通信技術の発展に伴い地図・地理空間情報技術は急速に発達。
- 災害対応の現場に正確で詳細な情報を迅速に提供する技術の発展はめざましい。

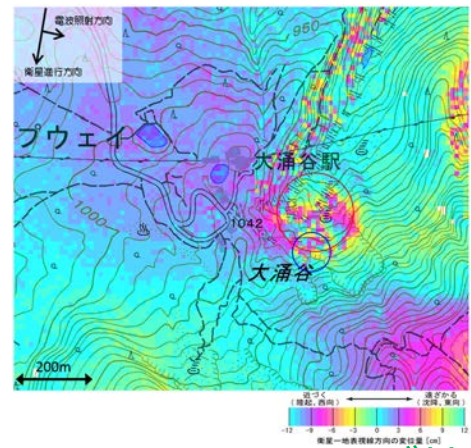


INTERNATIONAL MAP YEAR 2015-2016

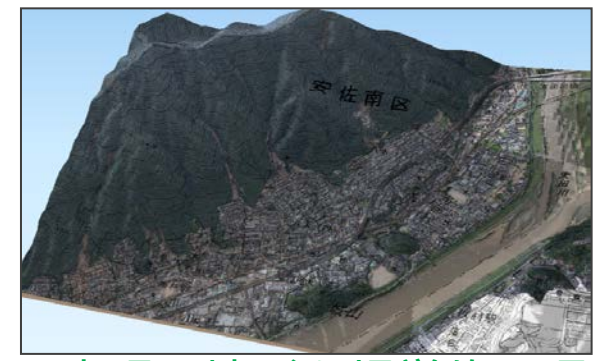
防災に役立つ地理空間情報の新技術



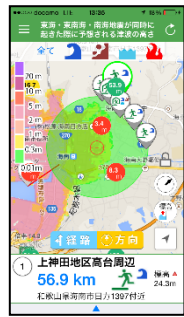
ウェブ地図で災害現場の情報を共有



リモートセンシング技術で地殻変動を解析



3D表現で地形を視覚的に理解



スマホアプリを使った避難訓練



無人航空機による被災状況の把握



INTERNATIONAL MAP YEAR 2015–2016

分野間連携への期待

- 地図学の研究対象は情報の可視化と空間表現の方法論。
- 地図学と他分野の連携により、防災に関連する事象の空間分布・空間構造を可視化したり、分野間の成果の重ね合わせにより新たな成果を生み出すことが可能。
- 防災学術連携体に大いに期待する。



国際地図年と国際地図学会議2019

- 国際地図年 International Map Year 2015-2016を実施中。
- 第29回国際地図学会議 International Cartographic Conferenceが2019年に東京で開催されることが決定。

